

英語（リスニング）

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の「英語」にリスニングが導入されてから、早7年目を迎える。平成24年度センター試験におけるリスニングテストの受験者は、本試験が514,748人（昨年度は513,817人）で、受験者全体の約97.8%（昨年度は97.4%）が本テストを受験している。このことは、本テストの実施そのものや、問題の質・難易度、使用される言語材料等が、センター試験の受験者のみならず、全国の高等学校関係者及び英語教育関係者など、多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。

平成24年度センター試験「英語（リスニング）」の追・再試験について主に検討・評価した項目は、内容・範囲、分量・程度、表現・形式等についてである。また、評価の視点として、以下の六つの事項をよりどころとした。

- (1) 現行の高等学校学習指導要領「外国語」
- (2) 平成24年度センター試験出題教科・科目の出題方法等
『英語』は、「オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語Ⅰ」に加えて、「オーラル・コミュニケーションⅡ」と「英語Ⅱ」に共通する事項を出題範囲とする。
- (3) 「オーラル・コミュニケーションⅠ」、「英語Ⅰ」、「オーラル・コミュニケーションⅡ」及び「英語Ⅱ」の教科用図書
- (4) 平成24年度大学入試センター試験「英語（リスニング）」（本試験）
- (5) 平成23年度大学入試センター試験「英語（リスニング）」（追・再試験）
- (6) 平成23年度大学入試センター試験問題評価委員会報告書（追・再試験）

2 内 容・範 囲

(1) 第1問

男女二人による30語前後の短い対話を聞いて、問いの答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。昨年度と同様、対話は全てA－B－A－B形式であった。選択肢については、6問中3問がイラスト、2問は数字を使って示されていた。

計算を伴う設問、時刻、物の特徴を問う設問などがあったが、これらは特に「オーラル・コミュニケーションⅠ」などで頻出の内容であり、受験者にとってなじみのあるものであると考えられる。

(2) 第2問

男女二人による20～29語の短い対話を聞いて、最後の発言に対する相手の応答として最も適切なものを選ぶ問題である。昨年度と同様、対話は全てA－B－A形式であった。本問は、短い対話から、全体の内容を正確に聞き取り、それを踏まえて次の発言を予測する点において、リスニングテストでありながら、論理性や、推測力も試される問題形式である。日常の場面に即して

おり、状況がバラエティーに富んでいる点は、受験者にとっての親しみやすさや、教育現場への波及効果の面から評価できる。

(3) 第3問A

男女二人による50語前後の対話を聞いて、問いの答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。昨年度より会話のやり取りの回数が増え、A－B－A－B－A－B－A、A－B－A－B－A－B－A－B、A－B－A－B－A－Bのパターンが1問ずつ出題された。

対話全体から正解を導くようになってきているとともに、音声には出てこない表現を用いて正解が作られている。

(4) 第3問B

男女二人による152語の対話を聞いて、表中にある三つの空所に入るものを、六つの選択肢から選ぶ問題である。ロンドンからセント・アイブズに行く女性が、列車について駅員に尋ねている場面である。地名が聞き慣れないものであったが、「オーラル・コミュニケーションⅠ」等によく扱われる場面であり、受験者が理解するのに問題はなかっただろう。

また、表中に空所があることで、聞き取る情報が何であるかが明確に示されている。このことは、自分が必要とする情報を聞き取るという実生活においても重要なスキルであり、良問である。

(5) 第4問A

一問につき100語程度のモノローグを聞いて、問いの答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。内容は、doveとpigeonの違い、ビートルズの歌について、Riverside Museumの案内であった。多様な内容を扱った問題であり、授業でも様々な場面・状況に関するリスニング能力の育成を促すという波及効果が期待できる。かなりの情報量を整理しながら聞く能力が要求されている。

(6) 第4問B

203語のモノローグを聞いて、問いの答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。問題は、GPSと脳の関係についてであった。昨年度同様、今年度の問題も、話題、使用語彙ともに適切なレベルであった。読み上げられた文章の情報量はそれほど多くないので、設問で聞かれているポイントを整理しながら聞くのに適切であった。

3 分量・程度

(1) スクリプト語数

(() 内は本試験のもの)

大 問	設問ごとのスクリプト語数						平均語数	最大語数差
第 1 問	No. 1	29 (29)	No. 2	27 (30)	No. 3	31 (31)	29.7 語 (29.5 語)	4 語 (5 語)
	No. 4	30 (31)	No. 5	31 (26)	No. 6	31 (30)		
第 2 問	No. 7	20 (18)	No. 8	20 (20)	No. 9	21 (21)	24.0 語 (24.4 語)	9 語 (12 語)
	No. 10	25 (27)	No. 11	26 (29)	No. 12	27 (26)		
	No. 13	29 (30)						
第 3 問 A	No. 14	50 (47)	No. 15	51 (50)	No. 16	49 (52)	50.0 語 (49.7 語)	2 語 (5 語)
第 3 問 B	No. 17 - 19		152 (136)					
第 4 問 A	No. 20	95 (100)	No. 21	101 (104)	No. 22	98 (105)	98.0 語 (103 語)	6 語 (5 語)
第 4 問 B	No. 23 - 25		203 (216)					

(2) 質問文の語数

(() 内は本試験のもの)

大 問	小 問	質問語数	小 問	質問語数	小 問	質問語数	小 問	質問語数
第 1 問	No. 1	7 (9)	No. 2	6 (6)	No. 3	7 (9)	No. 4	6 (12)
	No. 5	7 (8)	No. 6	6 (8)				
第 2 問	No. 7		No. 8		No. 9		No. 10	
	No. 11		No. 12		No. 13			
第 3 問 A	No. 14	6 (6)	No. 15	7 (10)	No. 16	5 (5)		
第 3 問 B	No. 17	(表)	No. 18	(表)	No. 19	(表)		
第 4 問 A	No. 20	9 (12)	No. 21	7 (9)	No. 22	7 (10)		
第 4 問 B	No. 23	12 (8)	No. 24	12 (10)	No. 25	6 (10)		

センター試験のリスニングでは、第 2 問を除き、質問文が問題冊子に印刷されている。そのため、下記(3)の選択肢の語数と合わせ、その分量はリスニングテストとしての妥当性を考える上で一つの視点になる。10 語以上の質問文が 2 問あるが、いずれも平易な語彙を用いたもので、選択肢と合わせて時間内に読むことができる範囲である。

(3) 選択肢の語数

(() 内は本試験のもの)

大 問	小 問	選択肢の語数				小 問	選択肢の語数				大問ごとの平均語数
		①	②	③	④		①	②	③	④	
第 1 問	No. 1	数字				No. 2	イラスト				
	No. 3	5	5	5	3	No. 4	イラスト				
	No. 5	イラスト				No. 6	数字				
第 2 問	No. 7	6	6	6	5	No. 8	5	6	5	5	7.3語 (6.0語)
	No. 9	12	10	12	9	No. 10	7	7	6	7	
	No. 11	6	8	5	5	No. 12	9	8	7	7	
	No. 13	9	9	8	8						
第 3 問A	No. 14	4	4	3	2	No. 15	5	4	5	5	4.3語 (3.9語)
	No. 16	5	5	5	5						
第 3 問B	No. 17－19①～⑥の選択肢で全て地域名										
第 4 問A	No. 20	6	6	7	6	No. 21	3	4	4	5	5.9語 (5.8語)
	No. 22	8	8	6	8						
第 4 問B	No. 23	8	9	7	9	No. 24	4	5	3	4	6.4語 (7.6語)
	No. 25	6	6	8	8						

選択肢の平均語数を大問ごとに見ると、イラストや数字が使われている問題を含む第 1 問と、表の空所補充である第 3 問 B を除き、第 3 問 A が一番短くて 4.3 語、第 2 問が一番長くて 7.3 語であった。また、選択肢の語数が 12 語のものが二つあるが、本試験と同様、リスニングテストにおいてリーディングの負荷を掛け過ぎないようにする工夫が十分になされている。

(4) 問題の難易度

本試験の平均点は 24.55 点（得点率 49.10%）であり、昨年度の 25.17 点（得点率 50.34%）より 0.62 点、得点率は 1.24 下降した。追・再試験には本試験より解きやすい問題が幾つか含まれていたが、全体的には昨年度の追・再試験とほぼ同程度である。

(5) 各設問の内容及び難易度の評価

（注）難易度については、難・標準・易の 3 段階とした。

第 1 問 （大問全体の難易度：標準）

問 1 買物の場面で、お釣りの金額を答える問題である。単純な引き算であるが、読み上げられる数字を正確に聞き取る必要があった。fourteen を forty と聞き間違った受験者もいたのではないだろうか。（標準）

問 2 椅子の特徴を聞き取り、それに合う絵を選ぶ問題である。（易）

問 3 会話を聞き女性についての正しい記述を選ぶ問題である。run a fever という表現が分からなくても、I have a cold. という言葉で女性の状況が分かるであろう。選択肢が非常に判別しやすく、聞き取った内容の理解が不十分であっても正答できた受験者もいたであろう。（標準）

問4 物の位置を問う問題である。正答は2文目のbetween the phone and the lightで選べるが、残りの部分を聞いて混同してしまった受験者もいたかもしれない。(易)

問5 CDプレーヤーの特徴を聞き、当てはまる絵を選択する問題である。正答を選ぶためにはCDプレーヤーのつまみが鍵であるが、knobという語が「つまみ」を指しているとすぐに理解することは難しく、また日本語の発音とは異なるので、後半部分の聞き取りは大変難しかったと思われる。(難)

問6 時刻に関する問題である。Quarter past three. という時刻の表し方を理解する必要がある。そしてI forgot to set my watch back one hourが正しく理解できれば、正答を導くことができる。しかし、時差のために時計を合わせるという状況や表現に不慣れな場合は、会話の内容がつかみづらかったであろう。(標準)

第2問 (大問全体の難易度：難)

問7 自転車に関する会話である。選択肢のYes, and…の後には肯定的な補足内容が来るはずである。受験者の中には音声のit looks quite newに対する相づちだと考え、①を選んでしまったものも多いだろう。(標準)

問8 外食しようとしている二人の会話である。音声の最後のIsn't it a bit chilly?を正しく聞き取る必要がある。chillyは日常よく使われるが受験者にとってはcoldほどなじみがない。外食しようとしている場面であるので、食べ物と結び付けた受験者も多いだろう。(難)

問9 車が故障し、ガソリンスタンドへの道順を尋ねている場面である。音声のservice stationが何であることを理解する必要があるが、音声の最後のcar troubleもヒントとなる。(標準)

問10 友達と連絡を取りたいために携帯電話を借りようとする場面である。音声は理解しやすいが、最後の女性のセリフに対して受験者が予測するだろう内容と正答の内容がかけ離れていた。(難)

問11 部屋の体感温度の違いについての会話である。日常的な会話であるが、音声の最後のLet's turn on a fan to get the air moving. に対する直接的な返答ではなく、別の提案が正答である点が難しい。リスニング力の他に推測力も必要とされる問題であった。(難)

問12 楽器の演奏についての会話である。表現も内容も「オーラル・コミュニケーションⅠ」等の授業で扱うようなものであり、解きやすかったであろう。(易)

問13 劇の練習をしている場面である。音声のthe lines, the play等のキーワードから状況をつかむ必要があるが、受験者にはなじみが薄いものであっただろう。音声の最後のremember this scene is the climax of the playが示唆するものを理解できることが正答への鍵である。(難)

第3問A (大問全体の難易度：標準)

問14 運転中にどの道を行けばいいかを話し合っている会話である。列挙される提案は次々に否定され最終的に最初の提案に戻ってくるので、それを記憶にとどめておかななくてはならない。(標準)

問15 女性の母親から電話があったことに関する会話である。問題文がWhich statement is true about…?なので、全ての詳細な情報を記憶しておく必要がある。また、正答の鍵とな

る shopping centers が音声では the mall となっていて、この二つが結びつかないと誤答を選んでしまうだろう。(標準)

問16 昨晚のレストランの感想を述べ合っている場面である。情報が次々に出てくるので整理をして聞き取り理解することが求められている。音声で言われている内容が選択肢では置き換えられているので、すぐに理解できずに戸惑った受験者もいたかもしれない。(標準)

第3問B (大問全体の難易度：易)

問17 5:30発の列車は三度乗り換えが必要で、音声の Besides changing at St Erth, you have to change at Bristol が聞き取れれば、容易に解答できる。(易)

問18 9:06発の列車は二度乗り換えが必要で、音声の You've got to change at Plymouth and St Erth. が聞き取れれば、正答を導き出すことができる。(易)

問19 10:06発の列車は一度乗り換えが必要で、音声の You change at St Erth. が聞き取れれば正答を選ぶことができる。(標準)

第4問A (大問全体の難易度：標準)

問20 doves と pigeons の違いについての説明である。dove と pigeon を形容する語 (positive, negative) が聞き取れれば、解答できる。講義文であるので語彙・表現も難しめである。(標準)

問21 ビートルズの曲にまつわる謎についての説明文である。質問文の chord が受験者にとって普段あまり目にすることのない単語だと思われる。音声で使われている表現 (例えば out-of-tune piano) が難しく、さらに、選択肢では言い換えられており、正答を得にくい問題となっている。ビートルズについての背景知識を持っているかどうか、問題の解きやすさに関わったのではないかと思われる。(難)

問22 Riverside Museum についての説明文である。質問文が Which statement is true about ...? なので、幅広い情報を記憶にとどめておく必要がある。音声の Families may purchase a membership with special admission rates を聞き取ると正答を導くことができるが、選択肢では別の語に置き換えられているので、正答にたどり着けなかった受験者もいただろう。(標準)

第4問B (大問全体の難易度：標準)

問23 GPSの問題点は何かという質問で、音声の第1段落 However 以下を聞き取ることができれば、正答できる。(標準)

問24 質問文の英文上の構造が難しく、即座に理解することができなかった受験者もいただろう。ただし、音声で This area of the brain remembers … と言っており、remember を含む選択肢は一つしかないので、正答を選ぶことができる。(標準)

問25 質問文にある some scientists が音声にも登場するので、受験者は聞き取るべき箇所がはっきりと分かったであろう。(易)

4 表現・形式

(1) 設問形式・設問数・配点

大 問	設問形式		設問数	配 点	
第1問	対話（短）：イラスト、数値等選択		6問	各2点	計12点
第2問	対話（短）：応答選択		7問	各2点	計14点
第3問	A	対話（中）：内容把握	3問	各2点	計12点
	B	対話（長）：図表完成	3問	各2点	
第4問	A	モノログ（中）：内容把握	3問	各2点	計12点
	B	モノログ（長）：内容把握	3問	各2点	
全 体			計25問		50点満点

設問形式、設問数及び配点はいずれも昨年度と同じであり、バランスの取れた問題構成になっている。

(2) 音声を聞く回数

全ての設問で英文を2回聞くことができるようになっている。実際のコミュニケーションの場面では、1回しか聞くチャンスがないことも多いが、聞き返すことができるので、試験においては、現状の2回聞きの継続が望ましい。

(3) 発話速度

実際のコミュニケーションで話される速度に近い発話速度であった。授業でナチュラルな発話速度を意識した指導が望まれる。

(4) 質問形式

全て5W1Hで始まる質問で、適切な形式であったと考えられる。ただし、問15の Which statement is true about…? のように、音声の内容に合った記述を選ぶ問題では事前に聞き取るポイントが把握できず、選択肢の読解により多くの比重が掛かる上に、たくさんの情報を記憶にとどめておかなければならない。受験者に過度な負担を強いない工夫が必要なのではないか。

5 要 約

(1) 評価の総括

① 範囲

高等学校学習指導要領及び教科用図書に基づいており、高等学校段階における「聞く」の領域を中心とした学習の成果を問うものとして、おおむね適切であった。

② 内容

日常生活に関する身近な事柄を扱ったものが多く、話題で受験者が戸惑うことは少なかったと思われる。音声と選択肢の内容が言い換えられている等、思考力を問う問題も含まれており、非常に工夫が凝らされている。

③ 分量・程度

〔英文量〕 短い対話文から長文のモノログに至るまで設問によって長短があるが、各設問

の趣旨・目的に即したおおむね適切な分量であった。

〔選択肢〕 平均語数は第2問が7.3語、第3問Aが4.3語、第4問Aが5.9語、第4問Bが6.4語となっており、語数を抑える工夫がなされている。

〔難易度〕 本試験と比べて易しい設定になっている。

④ 表現・形式

〔設問形式〕 バランスの取れた問題構成になっている。

〔発話速度〕 高等学校におけるリスニング指導の実態を考慮した、おおむね適切な発話速度であったと思われる。

〔解答時間〕 設問に応じて、適切な解答時間が与えられている。

〔質問形式〕 ほとんどの質問が5W1Hで始まるもので、適切な形式である。

(2) 意見・要望・提案等

① 英文量について

今回の試験は、いずれの設問も適切な分量であったと考えられるが、試験時間の制約上これ以上増えることのないように今後も配慮していただきたい。

④ 問題の構成について

・第2問については、短い中で即座に状況をつかまなくてはならないので、受験者の実体験から余りにもかけ離れた内容は避けていただきたい。

・同一大問内で、難易度の違う問題をバランス良く配していただきたい。

⑤ 今後とも、日常で使われる自然な表現・受験者が将来経験するだろう実践的場面を取り入れていただきたい。その際、高校の授業で扱う表現・場面からかけ離れ過ぎないようにご配慮いただきたい。